

Ⅲ－４－（３）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学部

了徳寺大学健康科学部は、ディプロマ・ポリシーに示した能力・態度を身につけるため、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

- 1、開学理念・教育理念に示した、和の心と豊かな感性を持った医療人としての人間性を磨くための教養教育科目を、三年次まで配置したカリキュラムとする。
- 2、健康レベルに応じた的確な医療を実践することを可能とするため、基礎・臨床医学科目、専門基礎科目を系統的に配し、専門職医療人としての基礎力を確実なものとするカリキュラムとする。
- 3、高度な専門職医療人となるための専門科目を、低学年の講義から高学年の実習に至るまで全学年に効果的に配置する。
- 4、カリキュラムを構成する各科目の授業には、シラバスに明示したそれぞれの目標を達成するために最も適した、講義、演習、実習などの授業形態を取り入れている。
- 5、学修の評価方法はシラバスに明示し、定期試験、レポート、小テスト、実習評価等からそれぞれの科目の修得目標に応じた適切な方法で評価する。

理学療法学科

- 理学療法分野の基礎知識を体系的に身につけるとともに、狭い分野の知識に偏ることなく柔軟な発想ができる人材を育成する。
- 授業のみでなく、個別教育・少人数授業・セミナー等を通じて教員と主体的に議論・討論する機会を設けることで、学生に真に創造的な学問の方法論を学ばせ、科学的探究心・向学心・批判的思考と研究的態度を身につけさせる。
- 理学療法学の教育では理論の学習と臨床治療能力獲得のための演習及び実習は不可分である。後者を通じて理学療法士が臨床にあたる専門職であることの重要さと、臨床におけるコミュニケーション能力やプレゼンテーション技術を学ばせる。
- 理学療法概論や各論の授業において保健・医療・福祉に関する多職種の役割を理解させ、その関係者との円滑なコミュニケーション能力やプレゼンテーション技術を学ばせる。
- 理学療法専門科目・基礎臨床医学科目・教養科目のそれぞれにおいて必修科目に加えて選択必修科目と選択科目を設け、学生が主体的に専門的知識を高める環境を整える。
- 総合英語の授業を通じて、英語によるコミュニケーション能力と国際感覚を涵養し、異文化への理解を深め、国際的視野と行動力をもった人材を育成する。
- 医学倫理等の授業を通じて、感性豊かな人間性と倫理性を養い、人間の尊厳を重視できる高い医学的倫理観を持つ人材を育成する。
- 教育活動における全ての基本的あり方として、社会人としての教養及び礼節を身につけることを学ばせる。
- 成績評価は、試験やレポートの成績などに基づき、各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め成績評価を行う。

整復医療・トレーナー学科

- 日本伝統文化の心を深く認識し、幅広い視野と豊かな人間性を有した医療、スポーツ、教育分野の専門職を育成する。
- 日本固有の伝統医療である柔道整復師、スポーツトレーナー、並びに教職として必要な専門的知識・技術を習得させる。
- 国家資格である柔道整復師としての教育課程を根幹とし、更に公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト(CSCS)資

格、健康運動指導士及び中・高保健体育教諭に関する科目を設け、就業可能職種の選択肢を増やすと共に多岐に亘る資格取得を可能とした。

- 4年間のカリキュラムの中で、実技演習や大学附属クリニックでの臨床実習などを精力的に行い、柔道整復師国家資格者として勤務可能な医療機関並びに介護福祉施設等の実務に支障が無いよう実学教育に力を傾注している。

看護学科

- 教養科目と看護専門科目と関連づけて、人間を多方面から理解できるカリキュラムとする。
- 専門基礎科目を看護専門科目と関連づけて人間が生きる仕組みと疾病がもたらす影響を説明できるよう科目を配列する。
- その人の価値観、生活のしかた、意向を尊重した方法をよく考えて工夫できる能力を身につけさせるよう講義、演習、実習を効果的に配置する。
- 保健医療福祉に関わる多職種の機能と看護の役割を説明できるよう、講義、演習、実習で自らの考えを表現する機会を提供する。
- 保健医療福祉に関わる法律・制度を理解して、地域、医療施設、福祉施設などあらゆる場で看護活動を提供する方法を実習で体験できるよう多様な施設から協力を得る。
- 自らの関心、疑問を探究する力を持ち、よりよい看護をめざして生涯学習を継続する行動力が身につくよう探索的な学習を促進する。